

# ナイアガラタイムス

2022年3月1日 第9号

## 人 カ 夢



### 目次

名盤探検⑧	八神純子「コミュニケーション」	・・・ 2
シネマ滝⑦	「天空の蜂」(2015年9月公開)	・・・ 3
THE 極み	「ヴィーガンとは」 牧野菫さん	・・・ 4
美味しい話⑦	台湾料理 昇龍	・・・ 7

## 名盤探険隊⑧ 八神純子「コミュニケーション」(1985年2月発売)

先月、八神さんがラジオ番組に出演していた時こんな事を話していた。たまたまYouTubeを見ていたら外人の青年が「今日ジャパニーズシティーポップのアルバムが届いたんだ」と嬉しそうに包みの中からアナログ盤のジャケットを取り出した。それがこのアルバムだった。それで八神さんは思わず「本人です」と返信したとの事。そんなエピソードを聞き、この作品を取り上げる事にした。

八神純子。78年1月に「思い出は美しすぎて」でデビュー。2枚目のシングルセールスが低迷し引退も考えることに。そんな時、原宿の歩道橋で「みずいろの雨」のメロディーが突然おりてくる。これを自分で歌ってみたらなかなか良く、シングルとしてリリースすると評判が良かった。そしてあの番組「ザ・ベストテン」の「今週のスポットライト」に出演し、一夜にして全国区に知名度をあげていった。これがサクセスストーリーだ。

さて、このアルバム。滝が今でも印象深く覚えているのは発売当時、ラジオで彼女が「友達にダビングしてもらってもいいから聞いて欲しい」と。こんな事は後にも先にも聞いた事がない。それだけ彼女自身も好きな作品だったのだろう。

このアルバムは8作目、デビュー当時から在席していたレーベルを離れ最初の作品。ヒットしたシングルは一切収録されていない。だが、「1984(西暦2000年に向けて)」「ミスDJ」などの楽曲は、優しい声で包みこんでくれる。

それから八神さんは、このレーベルからこれを含め3枚のアルバムを発表したのち、結婚をしニューヨークに移住。音楽活動の拠点もニューヨークに置き、日本での活動は年に1度のディナーショー程度に、そんな事が25年間続いた。それが東日本大震災が起こり、「東北に行って被災者の人達と今を生きよう」と決意をし日本での音楽活動を再開し、今に至る。

滝は、このアルバムが発売当時、アナログ盤を買いカセットテープにダビングしてもっていたが、CDが欲しかった。一度94年にCD化されたらしいが、何故かこの時は買い逃してしまった。それでもなんとかCDにならないかと、機材を繋いでやってみた事もあったがうまくいかなかった。結局、今から10年前、2回目のCD化の時に、たまたま町田のCDショップで見つけ、手に入れる事が出来た。それだけ好きなアルバムだということだ。



## シネマ滝⑦ 「天空の蜂」(2015年9月公開)

公開当時、劇場でこの作品を見て、印象深く、いつか取り上げてみたいと思っていた。しかし内容はそんなに覚えていなかった。DVDを入手し昨日2回見た。テーマの重さと映像のすごさ、そしてエンターテインメントとしての魅力には、圧倒されてしまった。

95年に、東野圭吾の長編小説として刊行され、その20年後に映画化されたものである。著者も「映画化は絶対に無理だと思っていた」と述べている。それはそうだろう。あの空中での映像はすさまじい。

江口洋介と本木雅弘のダブル主演のこの映画、是非一度皆さんにも見て頂きたい。

この作品は、天空の蜂と名乗るテロリストが、その日に納入された軍用の巨大ヘリを遠隔操作で乗っ取った一日を描いている。

「8時間後に福井県の新陽という原発にヘリを墜落させる。日本中の原発を停止させろ」等の脅迫文が次々と日本政府に送りつけられる。ヘリの中には、見学に来ていたそのヘリの設計者の子供が取り残されている。これはテロリストも想定外だった。

当然一日中、日本はこの事件で持ちきりとなる。取り残された子供の救出だけは許される。空中での救出。それこそ息を飲むシーンである。

原発というものを日本政府が、そこで働いている人達が、どう捉えているか鮮明に描かれている。政府が国内全部の原発を本当に停止させたのか。誘致した地元の人達はどう感じているのか。これは本当に映像のすごさだけを見せている訳ではない。

最後はなんとか原発の上にヘリを墜落させる事は回避する事ができた。海面にヘリが墜落していく時、犯人からのメッセージが流れてくる。それが、この作品の肝になっているのかもしれない。



## THE 『極み』

今回の「極み」は、滝も全く知らなかった「ヴィーガン」という思想を皆さんと一緒にちょっと探検してみたい。

牧野さんが、うちの職場に藍染め体験にいらした時に「私、ヴィーガンなんですよ」と聞き、初めて聞く言葉にワクワクする気持ちと「なんだろう」という気持ちが重なり取材をお願いした。「ヴィーガン」の思想は滝も始めてで戸惑いながら、この記事編集してみました。

この対談は、登場人物が多く、牧野さん、彼女の友人佐藤さん、うちの職場の支援員の斎藤、そして滝です。

【ヴィーガンって、どういうものですか】

牧野：ヴィーガンとは、生きる上で「実践不可能じゃない限り動物を搾取しないという人」のことで。人間の都合で動物を「利用しない」とか「支配下に置かない」という考えであり、実践している人のことです。

ネットで「ヴィーガンとは」と検索すると、大体「完全菜食主義者」とかベジタリアンと並べられて書かれている事が多い。だが、食べ物の事だけではなくて、洋服も、サーカスや動物実験や水族館、動物園のように人間の都合で利用する事自体すべてにおいて反対なんです。

当然、人によって「不可能でない限り」が変わってくる。たとえば動物実験を経て作られた薬が必要な方もいる。その方はそれがなければ生きていけないし、その方達を批判するのは違う。私達だって風邪をひけば薬も飲むし、本当に緊急事態であれば病院に行って麻酔を打つ事もあるかもしれないけれど、それは許容範囲。ただ、たとえば目の前にケーキが出てきて、それを食べたいなと思って食べるというのは、相手（動物）の気持ちよりも自分の気持ちを優先しているのだから、それはヴィーガンとしては違う。

ヴィーガンとは食べ物に対する事だけではなくて思想。ヴィーガンになるかならないかというのは自分の気持ちと行動が一致出来るかどうかだと思うんです。

【動物園は？】

滝：お子さんが「動物園に行きたい」と言ったら、どうするんですか？

牧野：子供のためには私は行きたいです。それは自分としては、チケットを買う事で、動物園の利益になるような事はしたくないけれど、子供が行きたいと言うならば行きます。ただし、なるべくそこにお金を落とさない方法を考えるようにしています。

滝：麻溝公園の「ふれあい動物広場」のような無料のところだったらいいんですか？

牧野：麻溝公園には行ったこともあります。動物の実態を知らなければ、語ることもできないじゃないですか。見て自分がどう感じるのか、その子が繋がれたままなのか、歩きたい時に歩けるのか。見に行ったりしたこともありました。ただそれは、小さい頃、動物園が大好きで行っていた時の気持ちとは違ってヴィーガンの思想を知ってから見に行くとはすごく辛くなる事がありました。

【何故、ヴィーガンになったんですか】

滝：いつ頃からヴィーガンになったんですか？

牧野：2年ちょっと前から。

滝：なにがきっかけで？

牧野：きっかけはInstagram。私猫好きで、猫とオーガニックのふたつでつながっていたフォロワーさんのストーリーを見ていたら「私達ヴィーガンになります」というのが流れてきたんです（もともと、ヴィーガンという言葉は知っていた）。知っていたから「ヴィーガンになるって、そんなに極端な事なの。どうして、そう決めただろう」と、友達に対して思ったんです。聞いたら「私は、このドキュメンタリー映画を観て、動物の実態を知って、もう荷担したくないと思ってヴィーガンになる事に決めました」との事。その映画を教えてもらって観たんですよ。それを観た時、気持ちがすごく分かって、これはもう私もヴィーガンになりたいと思ったんです。

滝：それは、なんという映画ですか。

牧野：私が観て決めたのは、かなり過激なドキュメンタリー映画で「ドミニオン」という作品（2018年オーストラリア）。それは畜産業の動物達の真実だった。

【子供さんとヴィーガン】

牧野：子育てで葛藤することはあります。ヴィーガンになった時は小さかったから私を与えた物を食べていたんです。でも最近、お店に行くときと欲しがる。でもそれを食べさせないのも辛い。そもそも世の中にも出回っている物だし。それを選ぶのは子供の権利。だからそれを無理に強制しようという思いは今はありません。

滝：子供さんが大きくなったら、ヴィーガンをすすめますか？

牧野：最初はヴィーガンにならせたいため必死だったんです。自分の子育ての中にヴィーガニズムというのが入っていて、「虫さんを棒で叩いたらダメだよ」とか。それが伝わっていれば、きっと気付く時がくるだろう。母親が何故ヴィーガンなんだろうと自分で調べる時がくるだろうと思っている。自分でならなかったら意味がない。

【友人の佐藤さんから】

佐藤：私はヴィーガンではないんですけど、「お肉は食べない」という選択はしている。これはみんなに現状を知って欲しいと思っている。知らないから変に誤解されたりする事はすごく分かるんです。けれども、みんなが少しずつやめていくことによって殺される命も少なくなる。今ヴィーガンを知らない人達に向けて発信していくのであれば、出来る事からはじめようというのがいいかなと思う。だけどヴィーガニズムという考えは基本的にこれなので、その人達が出来る事をするというよりは、もう固まっているんです「動物を支配しない利用しない」。ヴィーガンの人達は「出来る事」じゃなくて完全にやらないという選択をしているんです。だけど、それは個人の自由であって、それぞれがそれに響いたら、そこから入っていくのもいいかもしれない。だけどあくまでも強制はしない。

### 【勧めるにも勇気がいる】

滝：ネットで調べてみたら、ヴィーガンを健康のためにやっている方もいて、生活習慣病が圧倒的に減ったという記事があったんですが。

牧野：ヴィーガニズムの定義とは、ちょっと違うんですが、健康のためにお肉を減らしたり。健康のためにやることもすごくいい。

滝：僕には出来ないな。肉も大好きだし、夜、寝る時も羽毛布団にくるまって寝ているんだから。

牧野：滝さんが「動物の権利」の一言でヴィーガンを受け入れてくれたじゃないですか。もし映像を見たらどうなるんだろうと思う。ただ、勧めるにも勇気がいる。それは自分もそれを見てすごく辛くなったから、自分の心と相談してそういうドキュメンタリー映画は見て欲しい。

滝：だけど、単純に「肉が好きな人がダメだよ」と言うのはヴィーガンの主張でもないですよ。

牧野：それはそうです。私も、お魚やお刺身がすごく大好きで、静岡に暮らしていた事があったんですが、お刺身も美味しくて大好きだったんですよ。ただ私、調理学校に通っていたんですね。その時から魚の頭を落とす事が出来てなかったんです。布巾をかけて「見れない」と思いながらやっていた。元々そういう自分がいたんですよ。それが一致したんですよ。

### 【命を頂く】

斎藤：「食べる食べないだけではない」という話はよく分かりました。お話の中の魚の頭が落とせなかったという事もなるほどなと思って聞いていました。一方で、狩りをして自分達でさばいて、自分達で食べるという方達がいるんじゃないですか。それって「大事に食べる（頂く）んだよ」という考え方もある。それは、どのように思っていますか？

牧野：捕りをして食べる人は、生きるために命を頂いているので必要だと思えますし、批判することはありません。しかし、先進国のように密飼いによる感染症などがおきれば殺処分するという実態。人間の都合で命をコントロールしているシステムは変えていきたいのです。どんな種の生き物にも「種差別」をしないという生き方もあることを多くの人に知って頂けたら嬉しいです。



## 美味な話 『台湾料理 昇龍』⑦

うちの職場の近くに、三角屋根の建物。昇龍という台湾料理屋がある。

滝が、ここに入った3年前は、本当になにかあると、この店にみんながよく食べに行っていた。それがこのコロナ渦。それにうちの会社も大所帯になり、気軽に外食が出来なくなってきている。

この店の定食は、すごくボリュームがあり、なにを頼んでも半分のコロケと一本の春巻が付いてくる。味も濃く滝の好みだった。

台湾料理とはあまり聞き慣れなく、ちょっと調べてみたら、中華と和食の中間的なものだと思っていらいしい。たしかに滝がよく行っていた頃も「これは中華料理だと思ってもいいのかな」と思っていたんだ。

7年前に相模原市中央区富士見にオープンしたこの店。昼ときには、ガッツリ食べたいサラリーマン達でにぎわっている。市内のあちらこちらに似たような赤い看板を見かけるのでチェーン店展開しているのかと思ったら、そうではないらしい。それだけ台湾料理がブームなのか。そう言えば、この頃「台湾カステラ」のお店も見かける。

そんなことよりも昇龍の定食が食べたい。実はこの定食がお弁当にもなっていて、なんと18種類もある。そこで節分の今日、職場のみんなで注文をとって食べる事になっている。ちなみに滝が頼んだのは油林鶏。鳥の唐揚げにタレがかかっているものだ。味のご報告は食後に・・・。

食べました油林鶏。甘辛いタレとサクサクの衣、たまらなくおいしかった。ご飯も見た目よりも沢山入っていて満足なランチでした。となりの人が唐揚げ弁当を食べていたんだけど、その大きさにも驚かされた。

女子にはボリュームがありすぎるといふ方もいるが、味は滝のお墨付き。相模原にお越しの際は是非。



## 編集後記

「春は名のみ風の冷たさよ」こんな歌いだしの唱歌ありませんでしたっけ。立春を過ぎたというのに、風が冷たくて仕方がない。たしかに陽射しの暖かさや陽が延びたことで確実に春が近いとは感じられるが、風が冷たい。特に今年の冬は寒い。コロナだって、1年前に編集後記を書いていた時は、今頃には、かなり終息しているかと思ったら、この感染者数。きっと誰もがこうなるとは思ってなかった。けれど我々は、この2年間で多くの生きる術を学び、きっとこれからどんな辛い事があっても生き抜いていける。そんな力をつけられた気がする（少し大げさかな）。

さて、今号はいかがだったでしょうか。「THE極み」ではヴィーガンをとりあげてみました。皆さんも読んでみて「これは、どうするんだろ」とかという色々な疑問がきつと湧いたと思うんです。それを周りの人達と話しあっていく。そんなきっかけになればと記事を作ってみました。取材に協力して下さった牧野さん佐藤さん、本当にありがとうございました。それから「美味な話」の昇龍のランチ。あれは本当においしかった。540円であれだけ食べられる。滝は週一ぐらいで食べたいなと思っているところです。これからも相模原の美味しいお店を紹介していければと考えながら探しておきますね。

これから暖かくなって春になって、きっとコロナも落ち着いて、心の余裕を持ちながら桜の季節を迎える事が出来るでしょう。なにがあってもおかしくない世の中だけど、一日一日を自分らしく丁寧に暮らしていき、豊かに生きていきましょう。

それでは・・・

### 発行所

〒252-2042 神奈川県相模原市中央区横山 4-5-4-107

発行責任者 大滝英史

MAIL nb060234-1625@tbk.t-com.ne.jp

☎ 042(755)9105

### 発行協力

社会福祉法人アトリエ 一から百まで堂

〒252-0235 神奈川県相模原市中央区相生 4-13-5

### 振込先

フク)アトリエ

ゆうちょ銀行 ○九八(098)店

普通 1208349

記号番号 10960-12083491

